

コロナ考

「すると、私のもとにセラフィのひとりが飛んで来た。その手には、祭壇の上から火ばさみで取った、燃えさかる炭があった。彼は、私の口にそれを触れさせて言った。『見よ。これがあなたの唇に触れたので、あなたの咎は取り除かれ、あなたの罪も赦された。』」（イザヤ 6:6.7）

コロナはクリスチャンに信仰のテストをつきつけました。コロナを他人にうつさないようにするのが、神の愛であると礼拝を集会自粛する教会があります。一方、コロナをより礼拝の真中におられるイエス・キリストに会う為に、コロナを恐れなくて礼拝を行う教会があります。イザヤの時代もユダヤは今日の世界のようにコロナより恐ろしい敵に怯えていました。頼りにしていたウジヤ王は死んでしまいました。政治も医療も教育の企業も頼りになりませんでした。その時、一介の名もない預言者イザヤに神殿の祭壇から取られた神の火が触れたのです。神の火はコロナもあらゆる疫病も死さえも焼き尽くします。祭壇の火はイザヤの咎と罪を焼き尽くしました。原子力より太陽のコロナよりも力ある火です。この火とは私たちの咎と罪を焼く尽くすために十字架の上に釘刺されたイエス・キリストの血潮です。

コロナもトンネルの向こう側から光が差し込むようになりました。しかし、これからの時代、日本のみならず、全世界規模にコロナ以上の疫病や災害が次から次へと襲ってくると聖書の預言に記されています。これを神様からの愛の鞭であり、警告として受け入れ、今までの自己中心の考えから神中心の生き方に切り替える機会ではないでしょうか。一日も早くともに礼拝をささげられることをお祈りしています。皆様のご家庭の為に教会は毎日祈りをささげさせていただいております。